

目的 成人男子の身体形態には年齢に伴う形状変化が見られ、個体差とともに、形態情報の詳細な検討が望まれている。これは、型紙設計やボディ設計の基礎資料になるばかりでなく、着心地よい着装など快適な衣生活を志向する上で重要な研究課題と思われる。そこで本研究では、成人男子の体幹部を対象として、形態情報を整理し、身体形態特性を表す要因を明らかにし、その具体的内容の把握を試みた。

方法 工業技術院により1981年に実施された、20歳から59歳までの男子、合計899名の体格調査の身体計測値から選んだ31項目を資料として用いた。19の解析項目を主成分分析することにより、体幹部の形態特性を表す要因をとらえた。さらにそれらを代表する項目を選び、20歳代、30歳代、40歳代、50歳代の4年齢層に分け、年齢的变化について検討を行い、加齢による具体的な形状変化をとらえた。

結果 1. 4年齢層からなる20～59歳の集団に主成分分析を行い、固有値1以上を示すものについて主成分の解釈を行った。2. これら各主成分について年齢層ごとに各個人の主成分得点の平均値を求め比較したところ、相隣る年齢層間にはいくつかの主成分において有意な年齢差があることを確認した。3. 第5主成分までの解釈に基づき、これらとかかわりの深い、上部胸囲・背丈・背肩幅・上部胸囲一下胸囲・背幅・胸幅の5項目を選定し、クラスター分析法により体幹部の体型分類を行った。